

「浅間山の初冠雪」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

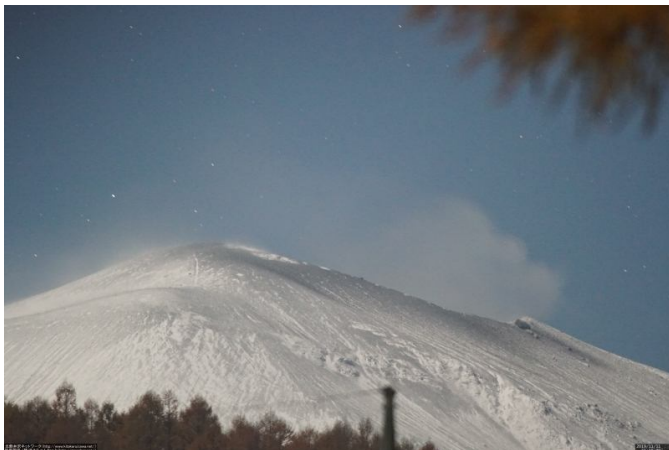
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

浅間山の初冠雪は、例年 10 月下旬に見られるが、今年が遅れていた。しかし 11 月 11 日の午後 9 時頃に、定点カメラの画像で確認できた。去年の初冠雪は 10 月 20 日だったので、20 日以上遅い。

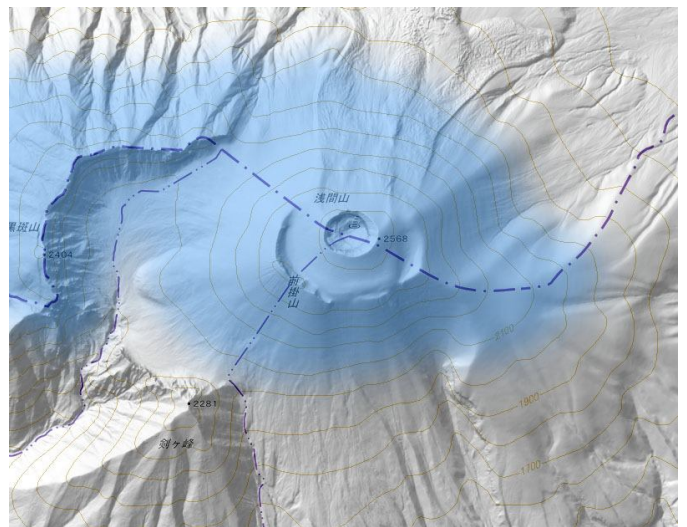
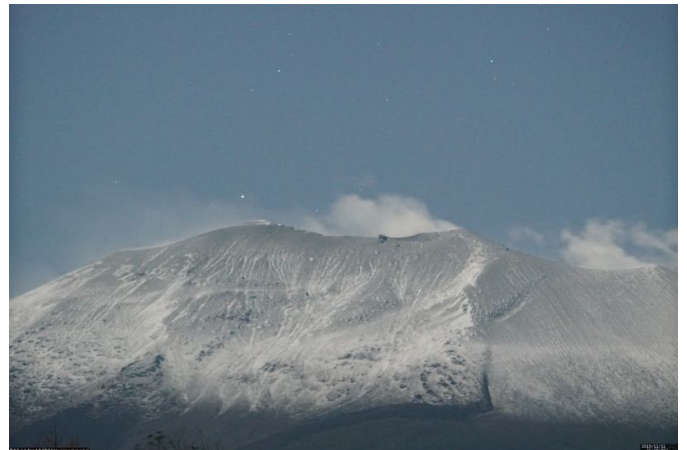


これは 11 月 10 日の浅間山画像である。北軽井沢に設置したデジタル一眼レフカメラを、東京から遠隔操作で撮影したものである。雪はまったくなく、浅間独特の青紫色の山肌をしている。

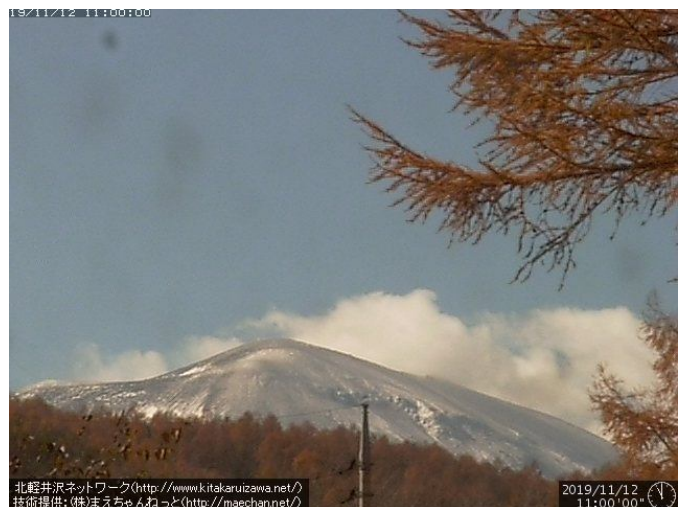


11 月 11 日の夜、北軽井沢の友人から「浅間に雪が降った」と連絡がきた。さっそくカメラをチェックすると、山頂部分が真っ白になっている。初冠雪である。この日は幸い満月に近く、夜間だったがまるで昼のように明るく写った。夜間である証拠に、恒星がいくつか写っている。火口壁付近は、噴気で温度が高いため、雪がない。積もってから融けたのではなく、もともと積もらなかったのだろう。

左下の写真では、山頂部(標高 2000m 以上)しか写っていないので、まるで浅間山全体に雪が積もっているように見えるが、そうではない。



浅間山の南側山麓に設置したカメラで見ると、雪はおおよそ標高 1900m 以上に積もっていることがわかった。地図で水色に表示した部分だ。恐らく南側(信濃追分側)は、もう少し標高が高い部分だろう。



積もったのは恐らく数 cm と思われる。翌朝太陽光が当たると、ほとんど融けてしまった。これを数回繰り返して、浅間は本格的な冬を迎える。